

守山企業景況調査報告書

(第 38 回)

平成 31 年 1 月～平成 31 年 3 月期 実 績

平成 31 年 4 月～令和元年 6 月期 見通し

守山企業景況調査について

(平成 31 年 1 月～平成 31 年 3 月期)

1. 調査方法

守山商工会議所会員企業 69 社に対し調査票を配布し、回答を依頼した。記入済み調査票は商工会議所へ持参、郵送、Fax 等により回収した。

2. 調査企業

産業別	調査対象企業数	有効回答企業数	回収率
小売業	20	16	80.0%
製造業	13	11	84.6%
建設業	12	10	83.3%
サービス業	19	16	84.2%
卸売業	5	4	80.0%
合計	69	57	82.6%

3. 調査期間

調査期間は、実績を平成 31 年 1 月～平成 31 年 3 月、見通しを平成 31 年 4 月～令和元年 6 月とし、調査時点は令和元年 4 月 30 日とした。

4. 調査データについて

調査の結果を示す指標として DI 指数を採用した。DI 指数とは Diffusion Index (景気動向指数) の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差引いた数値である。

「業況」、「売上」、「採算(経常利益)」、「従業員」の DI 指数は前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金の借入れ難易度」の DI 指数は 3 カ月前との比較である。

「取引の問い合わせ」、「採算(経常利益)の水準」の DI 指数は過去との比較ではなく、調査時点での水準を聞いたものである。

調査の概要

平成 31 年 1 月～3 月期の守山企業景況調査の結果は、以下の通りである。調査結果は DI 指数（景気動向指数）を用いて示している。

DI は、「増加」「好転」等の企業割合から「減少」・「悪化」等の企業割合を差引いた数値である。そのため、DI が±0 の状態であれば、「増加」・「好転」等の企業割合と「減少」・「悪化」等の企業割合が同じであることを示し、プラスの数値であれば「増加」・「好転」等の企業割合が「減少」・「悪化」等の企業割合よりも多いことを示す。逆に DI がマイナスの数値であれば、「増加」・「好転」等の企業割合が「減少」・「悪化」等の企業割合よりも少ないことになる。

また、グラフは右肩上がりになれば良い方向に向っていると判断でき、右肩下がりになれば良くない方向に進んでいると考えられる。

平成 31 年 1 月～3 月期の調査結果では、業況、売上高の 2 指標の数値が上昇した。

<業況>

業況 DI は▲7.0 で前回調査の▲13.6 から 6.6 ポイント上昇した。業種別では、小売業 ▲18.8（前回調査比+18.7）、製造業 ▲18.2（前回調査比▲34.9）、建設業 ▲30.0（前回調査比+6.4）、サービス業 12.5（前回調査比+18.8）、卸売業 50.0（前回調査比+25.0）と製造業を除く 4 業種で上昇した。

4 月～6 月期見通しは全体で▲12.5 であり、数値は低下している。

<売上高>

売上高 DI は 0.0 で前回調査の▲3.4 から 3.4 ポイント上昇した。業種別では、小売業 ▲18.8（前回調査比+18.7）、製造業 0.0（前回調査比▲41.7）、建設業 ▲30.0（前回調査比+6.4）、サービス業 18.8（前回調査比+18.8）、卸売業 75.0（前回調査比±0.0）であり、製造業が低下した。

4 月～6 月期見通しは全体で▲12.5 となっており、低下が見込まれている。

<採算（経常利益）>

採算（経常利益）DI は▲12.3 で前回調査の▲10.3 より 2 ポイント低下した。業種別では、小売業 ▲12.5（前回調査比+12.5）、製造業 ▲27.3（前回調査比▲45.5）、建設業 ▲30.0（前回調査比+15.5）、サービス業 0.0（前回調査比+6.3）、卸売業 25.0（前回調査比▲25.0）で小売業、建設業、サービス業が上昇した。

4 月～6 月期見通しは全体で▲17.5 であり低下の見通しである。

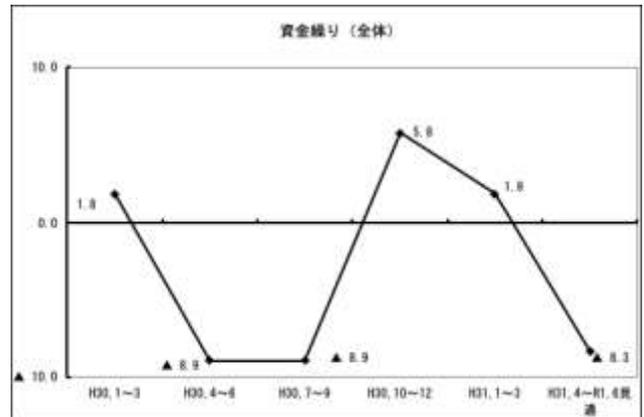
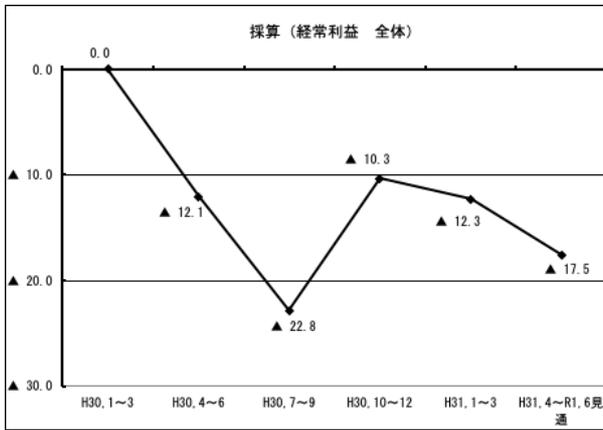
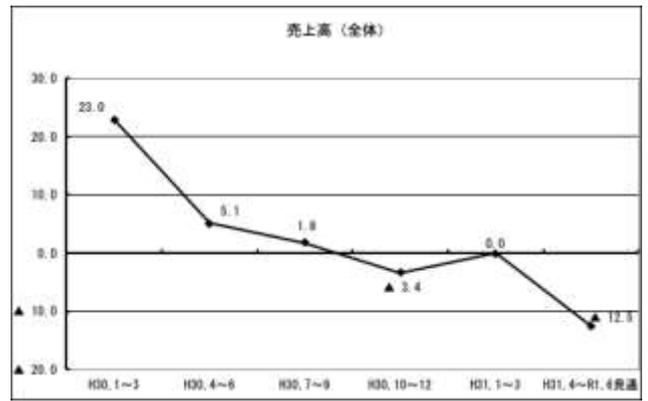
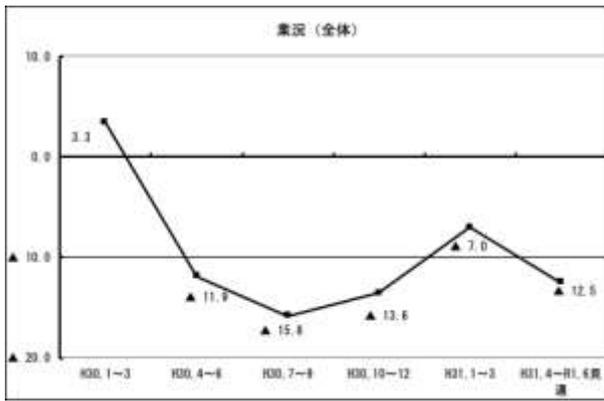
<資金繰り>

資金繰り DI は 1.8 で前回調査の 5.8 から 4 ポイント低下した。業種別では小売業 ▲12.5（前回調査比▲5.8）、製造業 0.0（前回調査比±0.0）、建設業 10.0（前回調査比▲8.2）、サービス業 6.7（前回調査比▲1.6）、卸売業 25.0（前回調査比±0.0）であった。

4 月～6 月期見通しは全体で▲8.3 であり、今回調査実績から低下している。

<その他の意見>

- ・人手不足が深刻です



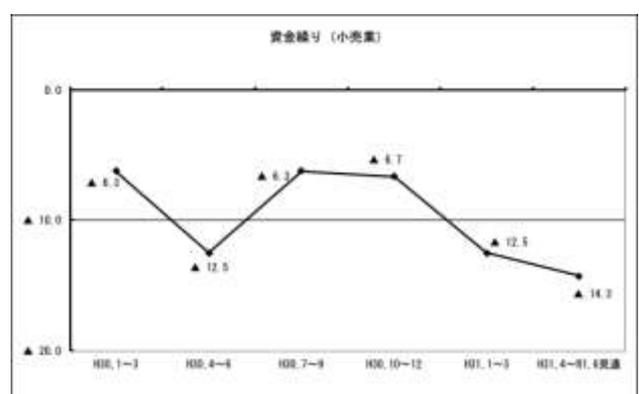
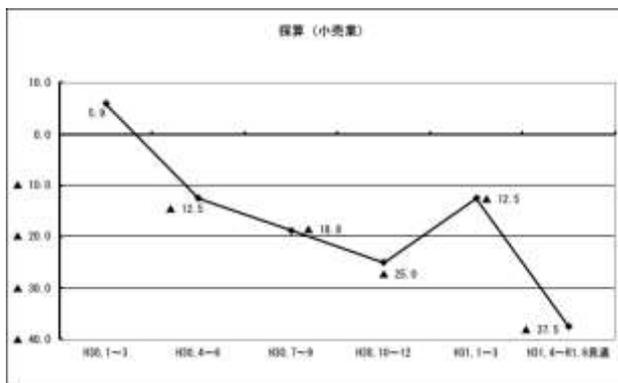
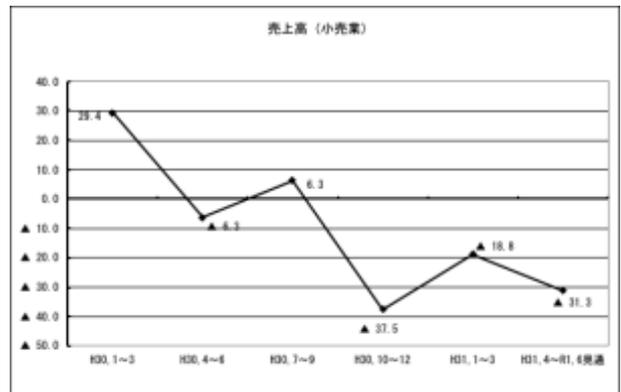
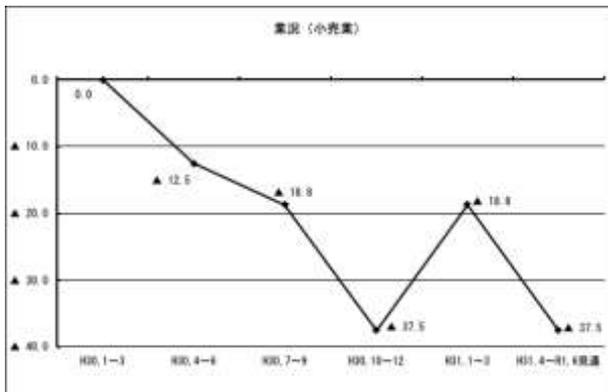
小売業

小売業の業況DIは▲18.8で前回調査に比べて18.7ポイント上昇した。前回調査まで3四半期連続で低下していたが、今回調査で上昇に転じた。しかし、4月～6月期見通しでは▲37.5と今回調査で上昇した分低下すると予想されており、先行きは明るいと言えない。

売上高DIは▲18.8で前回調査に比べて18.7ポイント上昇した。直近の1年を見ると上昇と下降を繰り返しながら水準は下降を続けている。今回調査は上昇の順であるがトレンドを変えるほどの上昇ではなかった。4月～6月期見通しは▲31.3で長期的な下降トレンドは変わらないようである。

採算（経常利益）DIは▲12.5で前回調査より12.5ポイント上昇した。過去3四半期連続で低下していたが今回調査で上昇した。しかし、4月～6月期見通しでは▲37.5と再び下降を予想しており採算が悪化しているようである。

資金繰りDIは▲12.5で前回調査に比べて5.8ポイント低下した。前回調査に引き続きの低下であり、4月～6月期見通しも▲14.3とさらなる低下が予想されており資金繰りが厳しくなりつつあるのかも知れない。



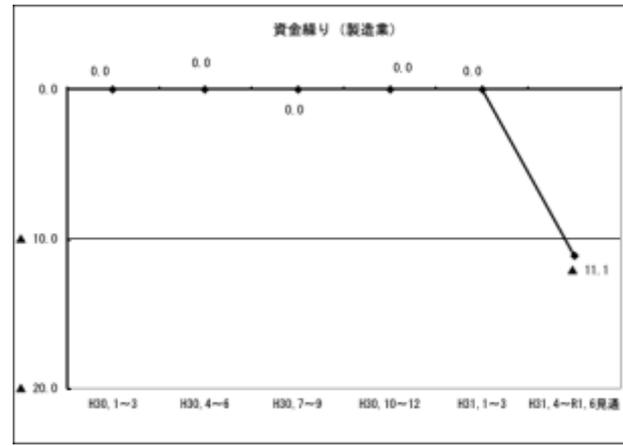
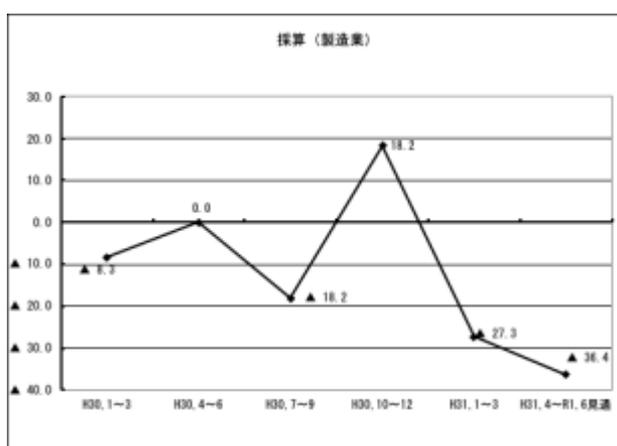
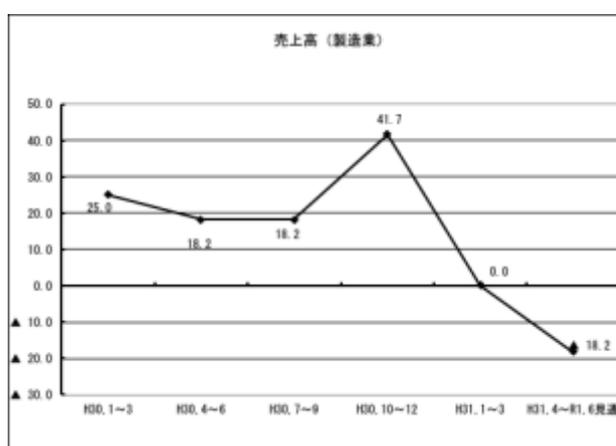
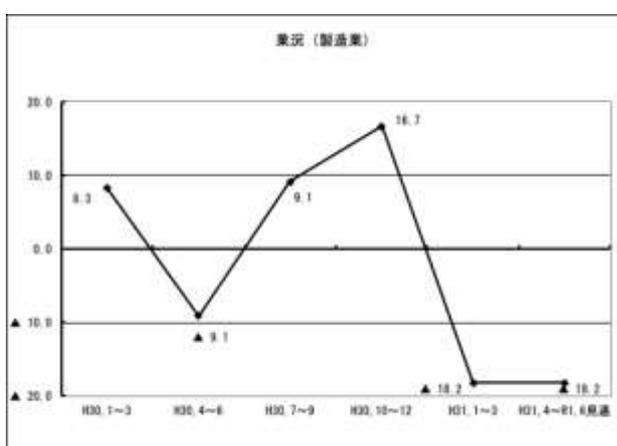
製造業

製造業の業況 DI は▲18.2 と前回調査に比べて 34.9 ポイント低下した。製造業の業況は平成 29 年 4 月から 6 月期以降比較的順調に推移してきたが、今回調査で大きく低下した。4 月～6 月期見通しでも▲18.2 と回復する予想になっていないので注意が必要である。

売上高 DI は 0.0 で前回調査と比べて 41.7 ポイント低下した。売上高 DI は最近の 1 年間で好調を維持してきたが大幅な低下である。特に前回調査の数値が高かっただけに今回の落ち込みが激しくなっている。4 月～6 月期見通しでは▲18.2 とさらに落ち込む予想である。

採算 DI は▲27.3 で前回調査より 45.3 ポイント低下した。売上高と同じように採算も大幅に低下したと言える。4 月～6 月期見通しでも▲36.4 で改善の予想が立てられない。

資金繰り DI は 0.0 で前回調査と同じであった。資金繰りは安定した動きを見せている。4 月～6 月期見通しは▲11.1 と大きく数値を下げており資金繰りにも慎重な見方が出ている。



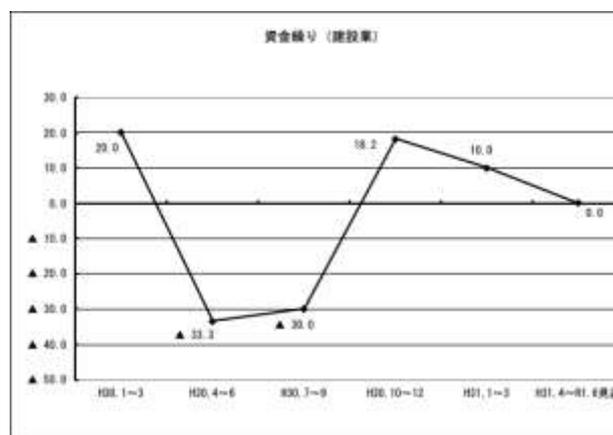
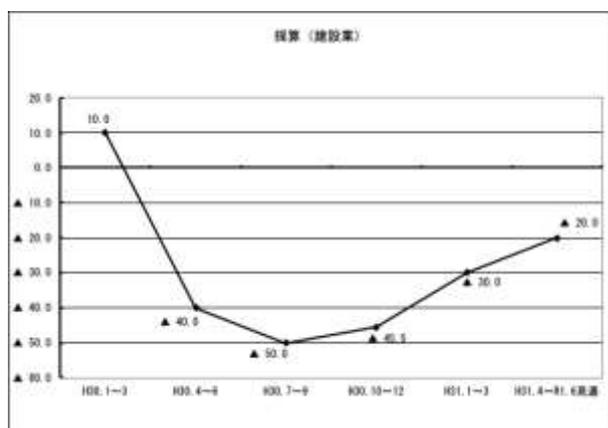
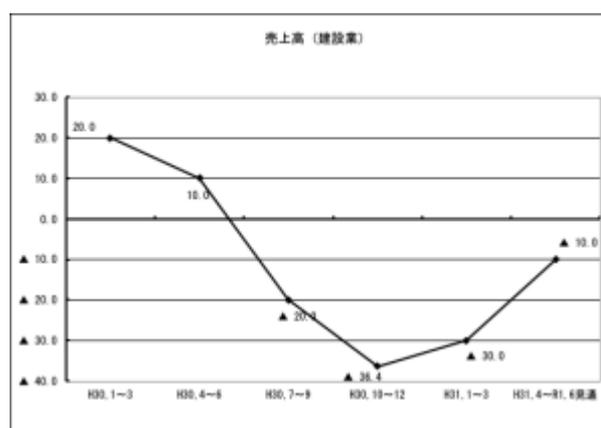
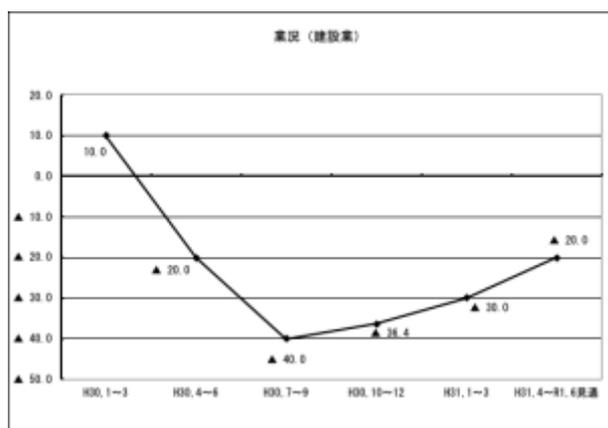
建設業

建設業の業況 DI は▲30.0 であり前回調査より 6.4 ポイント上昇した。前回調査に引き続き上昇している。4 月～6 月期見通しでも▲20.0 と上昇しており、業況は回復基調のようである。

売上高DIは▲30.0で前回調査より6.4ポイント上昇した。直近の1年間で見ると前回調査時点を底として回復の基調に入っているようである。4月～6月期見通しが▲10.0となっているのもその現れであると感じられる。

採算DIは▲30.0で前回調査より15.5ポイント上昇している。3四半期連続で▲40以下というかなり厳しい状態が続いていたが、今回調査では少し改善している。直近の1年間では平成30年7月～9月期が底のようである。4月～6月期見通しでも▲20.0と回復が期待されている。

資金繰りDIは10.0で前回調査より8.2ポイント低下した。前回調査で大幅に改善した資金繰りDIであるが、今回は少し低下した。とは言うものの、プラスの数値を維持しており問題はなさそうである。4月～6月期見通しは0.0で低下の予想になっている。



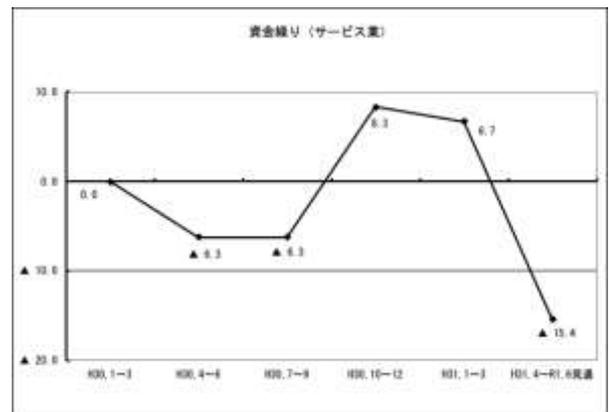
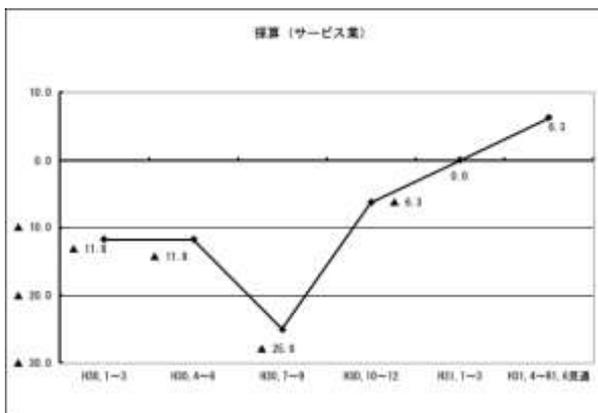
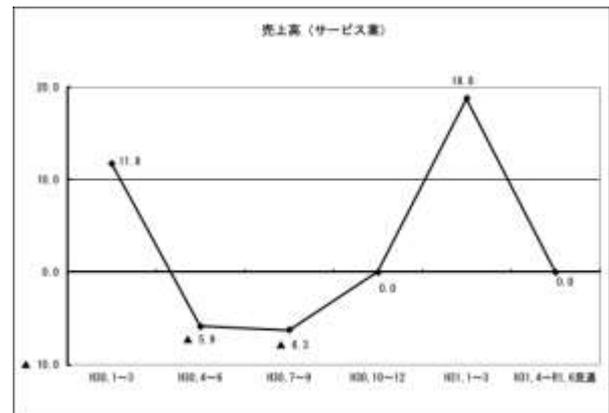
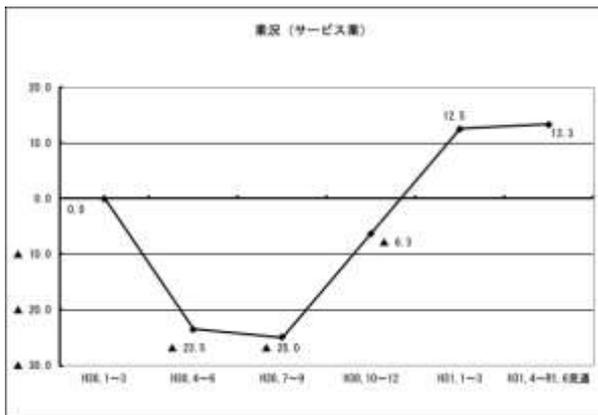
サービス業

サービス業の業況DIは12.5で前回調査より18.8ポイント上昇した。前回調査に続いて上昇しており、なおかつ調査開始以来初めてのプラスの数値であった。4月～6月期見通しでも13.3と上昇しており、サービス業の業況はかなり明るいようである。

売上高DIは18.8で前回調査より18.8ポイント上昇した。平成30年7月～9月期を底として回復の基調にあるようだが、4月～6月期見通しは0.0と反転しておりこの調子が続くとは予想されていない。

採算DIは0.0で前回調査より6.3ポイント上昇した。平成30年7月～9月期を底として回復基調のようである。し4月～6月期見通しでも6.3とこの基調は維持できそうである。

資金繰りDIは6.7で前回調査より1.7ポイント低下した。プラスの数値であるので資金繰り自体は悪くないと考えられるが、4月～6月期見通しが▲15.4と落ち込んでおり、注意が必要である。



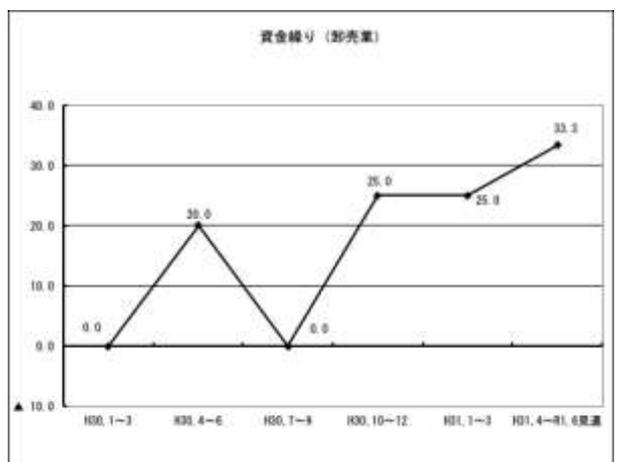
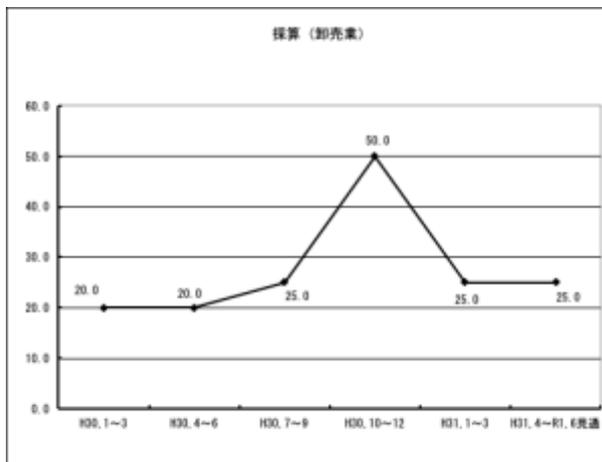
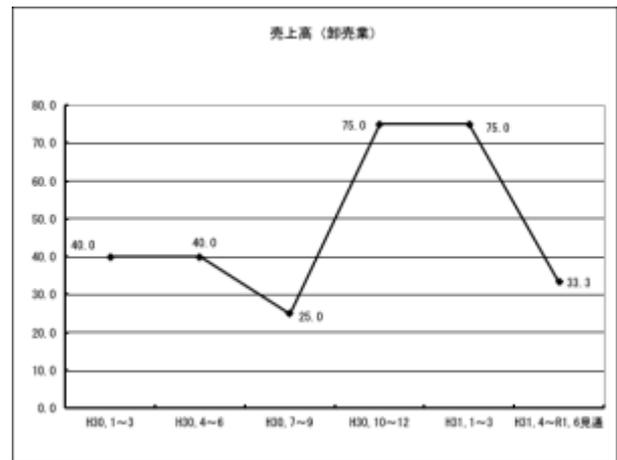
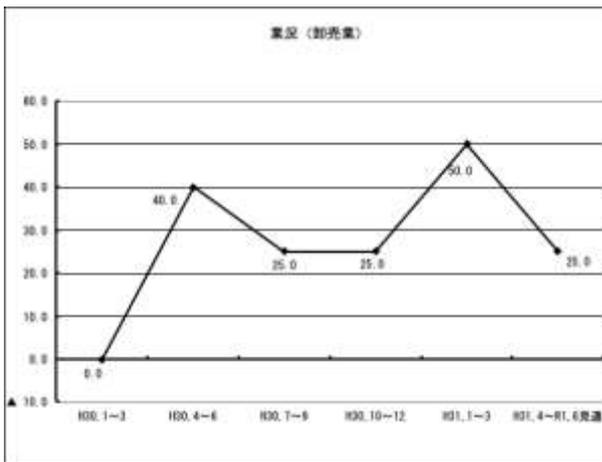
卸売業

卸売業の業況DIは50.0となり前回調査と比べて25ポイント上昇した。卸売業の業況は平成30年1月～3月期に0.0となってプラスの数値が続いており、業況は良いようである。4月～6月期見通しも25.0でDI自体は低下しているが好調であることは変わりなさそうである。

売上高DIは75.0で前回調査と同じであった。2四半期連続で75.0と非常に好調である。4月～6月期見通しは33.3と下げているが、プラスの数値であることには変わりなく問題はなさそうである。

採算DIは25.0で前回調査に比べて25ポイント低下した。採算も6四半期連続でプラス領域にあり、卸売業の好調はここにも現れている。4月～6月期見通しでも25.0と同じ調子が続く見込みになっている。

DI資金繰りDIは25.0で前回調査と同じであった。資金繰りもかなり安定しているようである。4月～6月期見通しも33.3と明るい予想になっている。



DI 指数一覧表

	昨年の同期との比較					
	業況		売上高		採算（経常利益）	
	1～3 月期動向	4～6 月期見通し	1～3 月期動向	4～6 月期見通し	1～3 月期動向	4～6 月期見通し
全体	▲ 7.0	▲ 12.5	0.0	▲ 12.5	▲ 12.3	▲ 17.5
小売業	▲ 18.8	▲ 37.5	▲ 18.8	▲ 31.3	▲ 12.5	▲ 37.5
製造業	▲ 18.2	▲ 18.2	0.0	▲ 18.2	▲ 27.3	▲ 36.4
建設業	▲ 30.0	▲ 20.0	▲ 30.0	▲ 10.0	▲ 30.0	▲ 20.0
サービス業	12.5	13.3	18.8	0.0	0.0	6.3
卸売業	50.0	25.0	75.0	33.3	25.0	25.0

	該当期について				昨年の同期との比較	
	採算（経常利益）水準		取引の問い合わせ		従業員	
	1～3 月期動向	4～6 月期見通し	1～3 月期動向	4～6 月期見通し	1～3 月期動向	4～6 月期見通し
全体	21.4	19.6	▲ 17.9	▲ 26.8	1.9	0.0
小売業	12.5	6.3	▲ 20.0	▲ 26.7	▲ 7.1	▲ 14.3
製造業	36.4	27.3	▲ 72.7	▲ 27.3	27.3	27.3
建設業	22.2	22.2	▲ 30.0	▲ 30.0	0.0	0.0
サービス業	6.3	12.5	0.0	▲ 12.5	▲ 12.5	▲ 13.3
卸売業	75.0	75.0	100.0	25.0	25.0	25.0

	3 カ月前との比較					
	資金繰り		長期借入れ難易度		短期借入れ難易度	
	1～3 月期動向	4～6 月期見通し	1～3 月期動向	4～6 月期見通し	1～3 月期動向	4～6 月期見通し
全体	1.8	▲ 8.3	4.2	0.0	4.3	0.0
小売業	▲ 12.5	▲ 14.3	0.0	▲ 9.1	0.0	0.0
製造業	0.0	▲ 11.1	10.0	10.0	0.0	0.0
建設業	10.0	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0
サービス業	6.7	▲ 15.4	0.0	0.0	0.0	0.0
卸売業	25.0	33.3	25.0	0.0	25.0	0.0

過去からの動向

